

知的事例 1 まとめ

- 1 福祉作業所の利用については、楽しく通っており特に問題は上がっていないが、現状に満足しないことが大切と思われる。家族としては、自分のことをもう少しできるようになってほしい、体力の維持をしてほしいとの希望がある。福祉作業所の職員との連携により、作業所でできることの共通認識を持ちたい。
また、余暇的な活動については満足しており、日常生活の中での楽しみは必要である。事業所の個別支援計画に本人及び家族の具体的なニーズが乗ってくることを望ましい。
- 2 家族の不安。現状の生活には満足しているが親亡き後の不安については、親ならば誰しもが抱えることになる。相談支援専門員及びサービス管理責任者の専門性及び連携により、ご本人やご家族が安心して今後の生活を送るイメージができるような関わりが必要と思われる。
- 3 今までは福祉作業所と地域活動支援センターに通っているだけであり、サービスの中に盛り込んだ日中一時支援や短期入所にも少しずつ取り組んでいくことになる。両親から離れて、自立できる部分を増やしていくことにより、両親の負担が少なくなり、親亡き後の対応も見えてくる。